

株式会社エネルギーアドバンス様

SuperStream



世界最高レベルの発電効率を誇る、フィンランドバルテラ社製ガスエンジンが、幕張地域冷暖房センターで稼働



EnergyAdvance

株式会社 エネルギーアドバンス

会社概要

▼事業内容

- ・オンサイト・エネルギーサービス事業
- ・地域エネルギーサービス事業（地域冷暖房事業）
- ・コージェネレーション設備工事・メンテナンス事業
- ・グリーン・ビジネスの事業化

▼従業員数

362名（2010年11月末現在）

▼本社

東京都港区海岸1-5-20

▼URL

<http://www.energy-advance.co.jp/>

▼導入プロダクト

- SuperStream-CORE*（基幹会計システム）
- SuperStream-AP+*（支払管理システム）
- SuperStream-AR+*（債権管理システム）
- SuperStream-connect*（システム連携ツール）

導入パートナー



あなたのビジネスに最適を

T I S 株式会社

高い技術力と柔軟性が納期死守のプロジェクトを下支え 柔軟なインターフェースを備えた新たな財務会計基盤を整備

導入の背景

保守期限を迎えた財務会計システムの刷新プロジェクトが始動

2002年に東京ガスの地域冷暖房事業が分社化して誕生した、日本有数のエネルギーサービスプロバイダである株式会社エネルギーアドバンス。“個性ある”エネルギーの創造を掲げながら顧客のニーズに合わせた多様なエネルギーを供給しており、特に顧客施設内に設備を構えるオンサイト・エネルギーサービスを事業の柱に据えている。また、高効率に電力や蒸気を生み出すガスコージェネレーションシステムをはじめ、バイオマスや太陽熱など低炭素社会の実現に向けた新エネ

ルギーの提案にも積極的に取り組んでいる。

さらに、電気や熱に加え、圧縮空気や純水など顧客が求めるユーティリティを総合的に供給する総合ユーティリティサービスを提供し、未来型都市基盤「スマートエネルギーネットワーク」の実現に向けた取り組みを開始するなど、社会基盤を支えるための安定したエネルギー供給の未来を担っている。そんな同社が取り組んだのが、保守期限を迎えた財務会計システムの刷新プロジェクトだった。

導入前の課題

リスク分散を念頭に、経費立替精算システムなど新たな仕組みも同時に検討

これまで、東京ガス時代から地域冷暖房事業のインフラを担当しているベンダが提供していた財務会計パッケージを活用していた同社だが、2010年にパッケージそのものの保守が終了することになり、新たな製品を検討することになったという。

「経理部門としては、これまで使っていた財務会計パッケージの後継製品で構わないと考えていました。しかし、基幹システム全体が特定のベンダに偏ってしまうことに対するリスク分散の意味もあり、財務会計基盤を新たに選定し直すことになったのです」（経理部 副部長 藤井 文人氏）

また、将来的な業務負荷増大に対処するための経費立替精算システムの導入や、ワークフローによる電子決裁システムの構築など、新たな仕組みも財務会計システムの刷新にあわせて検討された。

なお、今回のプロジェクトにはIT関連のコンサルタントとして杉山IT研究所の代表取締役社長杉山 晋氏が参加しており、各ベンダの取りまとめを一手に担っている。杉山氏によれば、「これまで使っていたパッケージが継続して保守できないと宣言されてしまったことで、今後同じようなことがあった場合はどう対処したらいいのか不安でした。製品サポートに対する企業姿勢も選定の過程で問われる部分だったのです」と当時を振り返る。



藤井 文人氏
株式会社エネルギーアドバンス
経理部 副部長

システム選定と導入

既存システムとの安定した連携と勘定科目体系への柔軟な対応が決め手に

新たな財務会計パッケージを検討するにあたり、東京ガスグループとして取引のある複数企業に打診したところ、およそ5つの製品が候補として残ったという。なかでもプロジェクト成功の鍵となっていたのが、既存システムとの連携だった。

「当初は、インターフェース部分の開発を

一から行うことも考えましたが、1億円を超える見積が出されたことも。また、プロジェクトのカットオーバーが事前に決定されており、納期を死守することは経営層からの厳命でもあったのです」（藤井氏）

可能な限りコストを抑えながら迅速に連携できるシステムを構築するべく、中間イン

ターフェースによる連携が可能な製品を検討した藤井氏だが、選定した製品の中には、財務会計パッケージと既存システムとの連携モジュールが異なるベンダから提供されているものもあった。購買管理や固定資産などの複雑な連携が予想されていただけに、既存システムを改修することなく安定して連携できる製品を模索したという。

さらに、同社の勘定科目体系は7桁で運用されているが、製品の中には桁数が柔軟に対応できないものもあった。勘定科目体系すべてを見直すには既存システムへの影響や納期の面でリスクが危惧されたという。そこで、これらの課題に 대응べく選ばれたのが、豊富な実績を持つ **SuperStream** だった。



杉山 晋氏
杉山 I T 研究所
代表取締役社長

「勘定科目の桁数が柔軟に対応できることはもちろん、インターフェースによる連携が柔軟な

SuperStream-connect を持っている部分が大きな決め手となりました」(藤井氏)

同時に、製品サポートに対する信頼感をはじめ、多くの企業に導入されているという豊富な実績面も評価のポイントとなっている。「採用実績が多いことは事前調査で把握しており、採用している他の企業からの評判も上々です。また、過去の製品で保守を打ち切ったことがないという企業姿勢にも好感が持てました。今後の IFRS 対応も視野に入れて考えると、パートナーとして信頼に足る企業だと判断したのです」(杉山氏)

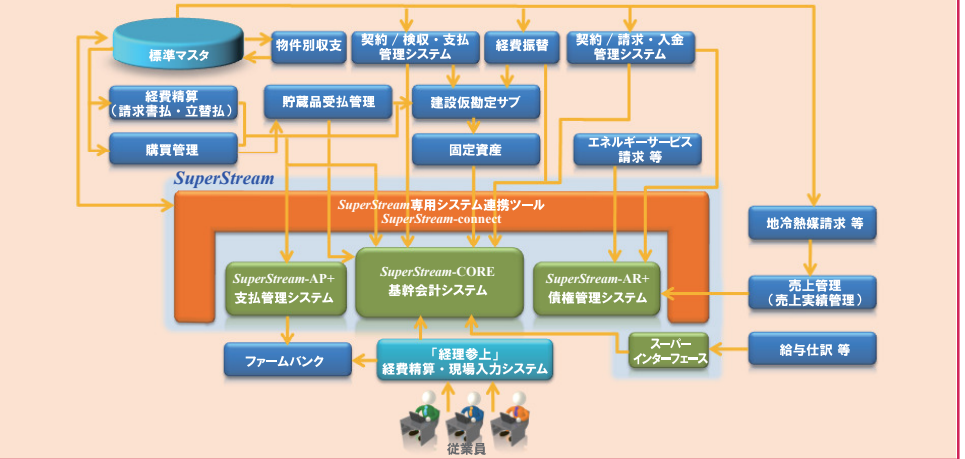
導入効果

Excel 連携など作業負荷が軽減、電子決済による内部統制も有効に

現在は、**SuperStream-CORE** を中心に債権管理システム (AR+) や支払管理システム (AP+)、さらには **SuperStream** 専用のシステム連携ツール「**SuperStream-connect**」が導入されており、同社の基幹システムを支える基盤として活躍している。また、**SuperStream** のアライアンス製品である TIS 株式会社の経費精算・現場入力システム「**経理参上**」を活用し、従業員の経費立替精算を効率的に行っている状況だ。

「以前と変わらない使用感で業務が遂行できることに満足しています。UI 部分では、ドロップダウンリストのみだった以前の仕

システム概念図



組みと比べて、手入力や検索など複数の方法で勘定科目が選択可能に。給与入力の部分では Excel 連携を採用するなど、使いやすくなった部分が多いと経理部門では好評です」(藤井氏)

またシステム面では **SuperStream-connect** と連携する 30 あまりのインターフェースが新たに開発され、既存システムとの柔軟な連携を実現している。マスタ連携はもちろん、フォールトトレランスや緊急時のバッチ処理など、現場で簡単にバッチ運用できるシステムを作り上げているという。

今回は、売掛金と入金データの自動消し込み機能を新たに採用しているが、消し込み率は70%近くにまで精度が向上しており、経理部門の方の作業負荷軽減に繋がっている。他にも、従業員の経費立替精算や振替伝票を発行する際の電子決裁時にワークフローを新たに採用したことで、内部統制が有効に働くようになったと評価も上々だ。

なお、今回のプロジェクトでは TIS 株式会社がインテグレーションを実施したが、至上命題でもあった納期通りにシステムをカットオーバーさせた“プロジェクト遂行能力”を高く評価しているという。

「要件定義から設計に至る各工程に雛型がきちんと提供されており、徹底した工程管理のおかげで成功することができました。インターフェース部分でも高度な技術力で開発を行っていただき、スムーズな連携が可能となっています。システムの更新などがあっても、安心してお任せできると確信しています」(藤井氏)

今後の展望

部門ごとの予実管理への足がかりとさらなる基盤作りを推進

今後については、保守が終了する既存システムの刷新がすでに予定されており、**SuperStream** を有効活用しながら安定した基盤システムを作り上げたいと意欲を語る。

「新たなシステムを導入する場合でも、**SuperStream-connect** を使うことで財務会計との柔軟な連携が可能です。市場の変化にも柔軟に対応できる環境を今後も整えたい」(藤井氏)

また、経費立替精算では従業員自らが個別で入力する仕組みを整えているが、この仕組みを足がかりにして、部門ごとの予実管理を充実させ、将来的には各部門に権限を委譲していきたいと今後の抱負を語っていただいた。

導入パートナーコメント

『信頼』こそが成功の秘訣

今回の財務会計システム導入では、複雑な関連システム間の連携が大きな鍵となりました。我々 TIS はその解決策として **connect**、外部データ取込機能、スーパーインターフェース機能と、各連携にもっとも適したインターフェース方式を選定し、実現しました。

TIS は、過去の **SuperStream** 導入の経験から得た確かなノウハウを活かし「痒い所に手が届く」というご支援ができたと感じております。

成功の影には、**SuperStream** の充実した機能の力はもちろん、エネルギーアドバンス様のプロジェクトに対する真剣な姿勢があり、それが相互の信頼に繋がってプロジェクト成功へと導いたのだと思います。

今後もエネルギーアドバンス様が更なる業務効率化・最適化を実現できるように、ご提案・サポートを続けていきたいと考えております。

T I S 株式会社
I T ソリューションサービス事業部
主査 新田 博司

<http://www.superstream.co.jp/>

SuperStream

スーパーストリーム株式会社

〒140-8526 東京都品川区東品川2-4-11 野村不動産天王洲ビル
Tel:03-6701-3647 Fax:03-6701-3641
E-mail:ss-info@ssjkk.co.jp

※本導入事例に記載された情報は初掲載時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。また、導入事例に記載されている製品名及びサービス名等は、各社の登録商標または商標です。

お問合せ先